

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070101181		
法人名	医療法人 中沢会		
事業所名	グループホーム NSホーム 2号		
所在地	群馬県前橋市下大島町596番の1		
自己評価作成日	H27.9.17	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人の広い敷地に病院と介護老人保健施設が設置され医療健康面の対応が充実しており、法人全体で地域における認知症介護の拠点を目指している。ユニット毎に食事献立を別にするなど独自性を出しながらも、それぞれ職員のきめ細かく利用者一人ひとりに沿った対応は一致している。利用者は貼り絵をしたり、家事をしたり思い思いに過ごし、ホームの庭では野菜を栽培し収穫を楽しんでいる。また、職員は利用者と一緒に梅干しやラッキョウ漬けを手作りし食卓を豊かにするなどさまざまな支援を行っている。職員の「利用者様の立場になって思いやる」という精神が利用者様の良い信頼関係を築いていると自負しております。今後とも、利用者の知識・技能・経験など活かせる場の提供に努め、生活機能の向上を目指します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を常に念頭に置き、理念に沿って従事している。又、ホーム内に掲示し毎朝の申し送り時に復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際、挨拶や声掛けを行い気軽に立ち寄って頂けるように努めている。イベント等の案内を回覧板や近隣に配り、参加して頂けるようお誘いしている。又、地域の祭りに呼んで頂き参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員・自治会長との関わりや回覧板により事業所の勉強会等への参加を仰いでいる。またホームだよりを回覧することでホームの様子を知って頂き認知症への理解につなげられるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催。家族・民生委員・市職員等に参加して頂き、行事報告・ヒヤリハット・事故報告等を行うとともに各出席者よりご意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加して頂き、状況報告を行いアドバイスを頂く他、必要に応じ相談に乗って頂けるような協力をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成をし、すべての行動制限が拘束となる事を職員が理解し、玄関の施錠に関してもブザーにて確認できるようにしている。施設内外の勉強会や研修会に出席し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会を設けている。又、法人内外の勉強会やホーム全体会議、ユニット会議を通じて、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内勉強会に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居の際、又は改定時には、御家族の方に細部に渡り理解・納得頂けるようお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット毎に苦情担当者を決め、玄関に苦情箱を設置。運営推進会議等を意見・要望を伺う機会と捉え積極的に意見等をお聞きするようにしている他、家族アンケートも行っている。そこでの意見要望は運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体会議に出席し運営に関する職員の意見、提案を聞き、その反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットの状況を細かく把握し、職員が向上心を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内外の研修会の案内を紹介する等積極的に参加するよう働きかけている。法人内研修の他、県の介護研修センター等の主催する研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設をお招きしたり、合同行事等行い、交流できる場を積極的に設けサービスの向上となる様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご本人の状態把握を行うとともにご本人が安心して入居して頂けるよう不安に思うこと、ホームに対する要望等じっくりと傾聴し信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心できる関係づくりに努めている	事前訪問を行い家族が困っている事・要望・今後の不安等傾聴し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時利用される方の状況によっては、より適切と思われるサービスの紹介・他施設の紹介等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方だけの立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの生活の知恵や料理のコツなどを人生の先輩である利用者様に学ばせて頂き共同生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方だけの立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に季節によつての行事・家族会などに積極的に参加して頂く事でご本人との絆を大切に頂き、共に利用者様を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた町や懐かしい場所へのドライブ、又、親しいご友人に来訪して頂ける現場作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないようなスペースを設けレクや会話に参加して頂き利用者様同士関われる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも気軽に来訪して頂けるようにご家族様との関係を大切にしています。必要に応じて相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前にご本人やご家族様から暮らし方の意向を聞き、御本人の希望や意思に沿える様に努めている。また個々の能力が発揮できるように援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者様の生活歴、生活環境、サービス利用の経緯等について情報収集し入居頂いている。入居後も利用者様との日常的な会話からその人らしく生活して頂くためのヒントとして把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、自立度等の現状の把握に努めている	ご本人の暮らし方の希望を把握しそれに沿えるよう努めている。個々の心身・機能の状態を把握し個々の能力が発揮できるよう援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限りご家族様にはカンファレンスに参加して頂き、意見が反映できるよう努め作成しているプランは1ヶ月毎にモニタリングを行い、評価・検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態・気づいたことを個別に記録し、利用者様の現状を職員間で把握し日々の援助やケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況や日々の生活の中で、その都度発生するニーズに対応できるよう、その都度職員同士話し合い、連携を取り、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方に出席して頂き情報やアドバイスを受け、地域行事等へ参加させて頂いている。それによりご利用者様への精神状態の活性化を図り安心・安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様やご家族様の希望を伺い、かかりつけ医を決定している。現在は利用者様全員協力病院がかかりつけ医になっており、2～3週間に一度往診し、必要に応じ随時受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者様の日々の生活の中で捉えた変化などを看護師に伝え適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院に至るまでの状態・日々の様子などを病院に伝達しスムーズに治療を受けられるよう配慮している。入院中の様子については病院ケースワーカーを通し情報収集を行い、早期に受け入れできるよう情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療・看取りに関する指針を定め、入居時にホームでできる事の説明をし、ご家族様の同意を得ている。また協力病院との連携で支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は毎年、法人内の勉強会及び消防署の出張救命講習にも参加し、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間の避難訓練を年2回実施し、地域の消防署の指導を受けて協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう、一人ひとりを尊重し、思いやりのある態度で接する様職員一同心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の過ごし方・レクリエーション・食事の希望などを伺い、ご本人が満足した生活を送れるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重し、一人で過ごしたい方・テレビを観たい方・歌を唄いたい方・散歩がしたい方などそれぞれの希望に沿ったレクリエーションを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんが来訪され、ご本人の好みに合ったカット・顔そりをされている。外出の際には、服装選びやお化粧品のお手伝いを行っている。ご利用者様の中に化粧を習慣にされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを知り、自分達で育てた野菜等も取り入れた食事作りをしている。又、ご本人様の出来る事を職員と共にして頂き、楽しみながら食事ができる様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量を記録・把握して栄養や水分量が十分に確保できるよう支援している。ご利用者様の状態に応じ食事形態の工夫や好みの飲み物の提供などで摂取しやすいよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け・見守りを行っている。夜間は義歯をお預かりし、衛生管理のため消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄パターンを把握し、排泄の失敗や紙パンツの使用量を減らす為早めの声掛け・定時の声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂取して頂くよう声掛けを行ったり好みの飲み物を提供するなどし、水分摂取を促している。また、体操やレクリエーションに参加して頂くなど便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回、午後に行っている。ご本人の希望を出来る限り優先し、入浴日の変更やタイミング、入浴時間を伺いながら、楽しく気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや習慣を大切にしている。夜間不眠がある方に対しては会話対応を行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬を把握し、変更された場合には全職員が確認できるよう伝達ノートに記入している。又、医師や看護師より説明を受け症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆様が出来る事の喜びを味わって頂けるよう、台所仕事や洗濯物干しなどの簡単なお手伝いを役割分担で行って頂いている。一人一人が楽しみながら行って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の意見を聞き、散歩へ行ったり季節を感じられるようドライブに出掛けたりしている。又少し遠出を希望された際には、事前に下見をし計画を立てご家族様の参加協力を得て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に現金を持つことが安心につながる方は、ご家族と相談し所持して頂いている。それ以外の方も、外出時にはお金を持って頂き、好きな物をご本人が支払って購入できるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が電話を希望をされた時、御家族の了承を得た上でお話をさせて頂いている。その際、ダイヤルは職員が代わりにかける等の支援を行っている。手紙の投函を希望される際は、代わりに出させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様が共同で作った季節の壁面装飾を飾らせて頂いている。気温や湿度、明るさに配慮し、適宜調節をさせて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の椅子で過ごされる際には気の合った方同士を隣に座って頂くなどし、和やかに過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた椅子やタンスなどをご家族に持って来て頂いたり、家族写真を持って来て頂いたりすることで、過ごしやすい居室となる様、配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと居室のドアの色を色分けしたり、トイレ・居室のドアに分かりやすい表札を付けたりすることで、ご本人の意思で自室やトイレに行くことができる様にしている。また、文字情報の入りにくい方の居室には、マークを付けさせて頂くなどの工夫をさせて頂いている。		